

町の魅力を高め、産業の活性化につなげていくために、J Aや商工会等、経済団体と連携を深めていく必要があると考えている。

③道の駅については、集客の拠点施設としての期待も高まりつつあるが、人が集まる魅力あるものをいかに開発し、情報発信していくかが大切であると考へており、現段階で建設については考へていない。

子どもの体力向上を目指した小中学校の取り組み

安田 薫議員

昨年12月、平成21年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果が取りまとめられ、公表された。本町の結果はどうだったのか。全国の結果との違いはあったのか。

本町として、小・中学校の子どもたちの体力向上に向けて取り組みを検討

しているのか、積極的な施策を伺う。

三澤教育委員長

実技に関する調査結果は、種目の合計点では、小・中学校とも全国平均を下回ったが、種目別にみると、小学生では握力及びソフトボール投げ、中学生では握力及び立ち幅跳びが全国より高い状況となっている。

運動する子どもとしない子どもの二極化の傾向が見られており、スポーツ少年団活動や各スポーツ教室等への参加を積極的に呼びかけていく。

学校給食の推進は

安田 薫議員

給食を通して、食育・食の大切さをどのように教へていくのか伺う。

また、本町で生産される農産物・加工品等がどの程

度使われているのか。

執行方針の中で、特色ある学校給食として地元食材をいかした「十勝清水めぐみ給食」の実施とあるが、具体的なメニュー等を伺う。

三澤教育委員長

子どもたちが、豊かな人間性を育み、生きる力を身につけさせるためには、食が大事であると考えている。

適切な栄養摂取による健康保持をはじめ、食生活が、食にかかわる人々の活動に支えられていることへの理解と、感謝の気持ちで深まるように指導している。

本町で生産されている



町内の収穫がほぼ終わる時期に「十勝清水めぐみ給食」が提供されている。

農産物等の給食への使用状況については、パンは十勝産小麦を原料に町内の業者が加工したものを、麺類も清水産小麦をできるだけ使用している。また、野菜については、ジャガイモはすべて町内産で、その他、アスパラ、白菜、大根、ごぼう、黒豆等は、収穫期等に合わせて使用している。

「十勝清水めぐみ給食」は、清水産の食材にこだわったメニューとして、「あすなろ牛乳」、「肉じゃが」、「ヤマメのから揚げ、ごぼうのから揚げを使った「サネンコ口丼」などを提供していく。

町民に寄り添った公民館使用条例に

奥秋康子議員

公民館の使用条例が、抽象的で理解しがたい、あらためて条文の解釈を問う。使用目的の39日前に使用許可を得て、使用料を前納し、その後、使用日の16日前に不測の事態が起き、キャンセルしたが、還付は認められなかった。

①町民が使用条例を認識していることは少ない。許可申請をするとき、窓口で説明をしているか。

②還付は、館長が相当理由ありと認めるときとあるが、何を想定しているか。

③前納の方法も町民との信頼関係の中で考慮すべきではないか。

三澤教育委員長

①公民館の使用許可を出す際に、継続的に利用する団体が多いため、特に条例の説明はしていないが、今

後は説明を行っていく。

②条例による還付できる理由は、一般的に自然災害、伝染病などの発生により施設の利用が不可能になったときや、公益上、やむを得ない事由が生じたときを想定している。結婚祝賀会で、キャンセルがあった場合は、相応の理由に当たるとして、開館当初から館長が特別に認める事由として還付している。

③前納方法については、規則等の見直しを検討していく。

本年度予算の取り組み

奥秋康子議員

①政権交代で本町の予算編成にどう影響したか。

②一般会計総額で約4億円、6・6%伸びの予算額が提案された。新規の専門委員の予算付けもあるが、町は早期に財政健全化に